

4. 刊行物・主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4.1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

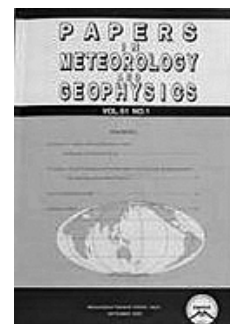
研究成果の学術的な公表を目的とした季刊の論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署など (国内約 700 箇所、国外約 250 箇所) で、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成 17 年度からは 独立行政法人 科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム “J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成 17 年度は第 56 巻として計 1 冊を発刊し、次の論文を掲載した。



第 56 巻

- Tokieda, T., K. Enyo, H. Matsueda, M. Ishii, M. Hirota, and T. Midorikawa: A comparison of dissolved chlorofluorocarbons in seawater measured by MRI and JMA CFCs systems.
- Fujibe, F., N. Yamazaki and M. Katsuyama: Long-term trends in the diurnal cycles of precipitation frequency in Japan.
- Kodera, K.: Possible solar modulation of the ENSO cycle.

気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国内の研究機関・大学、気象官署など (国内約 800 部、国外約 250 部) で、国立国会図書館でも閲覧することができる。平成 17 年度からは、気象研究所ホームページでも公開を開始した。

気象研究所 URL: <http://www.mri-jma.go.jp/>

平成 17 年度は、第 48 号、第 49 号の 2 号を発刊した。



第 48 号

日本海降雪雲の降水機構と人工調節の可能性に関する研究 (物理気象研究部; 予報研究部)

第 49 号

平成 16 (2004) 年日本上陸台風の概要 (台風研究部)

4.2. 発表会、主催会議など

気象研究所研究活動報告会

研究活動報告会は、気象研究所の研究活動や研究成果について、広く社会一般の方々の理解を促進するため、気象研究所が進めている研究のうち、特に気象業務や国の施策に関係の深い事柄について報告を行うもので、新たな気象研究所の取り組みとして平成15年度から開始した。

3回目の開催となる平成17年度は、7月21日（木）に気象庁講堂（東京）で開催し、次の4題を報告した。

- ・新たな中期研究計画と研究推進体制について・・・・・・・・・・藤谷徳之助
- ・日本における猛暑と大雨の実態に関する研究
 －「異常気象」の解明を目指して－・・・・・・・・・・藤部文昭、栗原和夫
 コメンテータ： 木本昌秀 氏（東京大学 教授）
- ・平成16年上陸台風の総合研究・・・・・・・・・・中澤哲夫
 コメンテータ： 岡田 恒 氏（独立行政法人建築研究所 構造研究グループ長）
- ・山岳性降雪雲の人工調節に関する研究
 －水資源の確保を目指して－・・・・・・・・・・村上正隆
 コメンテータ： 沖 大幹 氏（東京大学 助教授）

気象研究所研究成果発表会（気象研究所創立60周年記念講演会）

気象研究所の研究成果を発表することにより、気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。

平成17年度は、気象研究所創立60周年に当たることから、気象研究所OBによる記念講演を加えた気象研究所創立60周年記念講演会として、平成18年1月27日（金）に気象庁講堂（東京）で開催し、研究報告（平成17年度終了課題）として次の5題を発表した。

記念講演

- ・気象研究所創立60周年を迎えて・・・・・・・・・・元気象研究所長 原田 朗
 研究報告（平成17年度終了課題）
- ・マイクロ波データ等を利用した台風構造変化の研究・・・・・・・・・・中澤哲夫
- ・北西太平洋の力学的海況予報に関する研究・・・・・・・・・・辻野博之
- ・ライダーによる大気微量成分観測法の高度化に関する研究・・・・・・・・・・永井智広
- ・津波の発生・伝播に関する基礎的研究・・・・・・・・・・高山寛美
- ・火山活動に伴う自然電位、重力変化等の観測・解析に関する基礎的研究・・・・山本哲也

5. 普及・広報活動

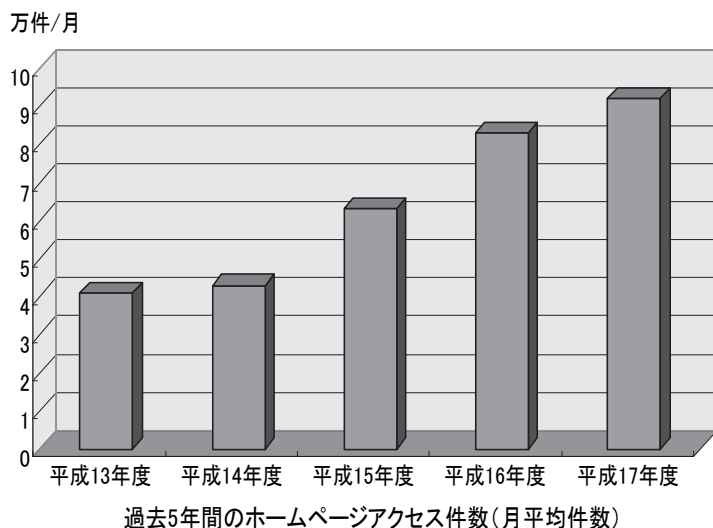
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

5.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用しており、平成15年度には、レイアウトや構成などを全面的に見直した。平成17年度は気象研究所研究報告、気象研究所技術報告のPDFファイルを掲載するとともに、英語版ページを更新した。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からもリンクが張られており、平成17年4月から平成18年3月のアクセス件数は約108万件であった。



ホームページアドレス: <http://www.mri-jma.go.jp>

5.2. 施設公開など

5.2.1. 一般公開、施設見学

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間*の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設公開のほか、ビデオ放映やパネル展示による業務紹介を行っている。

平成17年度は4月20日（水）に一般公開を実施し、160名の来場者があった。

* 科学技術週間とは

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

お天気フェア

気象研究所では、高層気象台、気象測器検定試験センターと共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。さらに、例年天気図講習会として天気図の描き方に関する講習会を行っており、小中学生から好評をいただいている。

また、このお天気フェアは、つくば市主催の研究機関スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の対象にもなっている。

平成 17 年度は、8 月 3 日（水）に以下の内容で開催し、1319 名の来場者があった。

天気図講習会（予報研究部）

実験・体験コーナー

- ・ 台風を作ってみよう 台風研究部
- ・ 光のいろいろ 物理気象研究部
- ・ 放射能をみてみよう 地球化学研究部
- ・ 海の謎を解き明かせ！ 海洋研究部
- ・ 地震の音を聞いてみよう！・マグニチュード体験 地震火山研究部
- ・ ダウンバーストをつくろう 気象衛星・観測システム研究部
- ・ 放球体験 高層気象台
- ・ カルマン渦を作ってみよう 高層気象台
- ・ 紫外線の測定実験 高層気象台
- ・ 温度計を作ろう
- ・ お天気〇×クイズ

ビデオ上映（気象研究所概要ほか）

観測・研究施設見学

- ・ 大型気象風洞 物理気象研究部
- ・ 低温実験施設 物理気象研究部
- ・ ドップラーレーダー 気象衛星・観測システム研究部
- ・ 係留気球 高層気象台
- ・ ラジオゾンデ 高層気象台
- ・ 気象測器参考館 気象測器検定試験センター

施設見学など

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行なわれる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、必要に応じて施設見学の対応を行なっている。見学内容は、見学の目的や実験の状況などを勘案し、その都度設定している。

平成 17 年度は 33 件の見学を受け入れた。

5.2.2. 普及・教育制度との連携

サイエンスキャンプ

サイエンスキャンプは、最先端の研究者による講演や研究現場の見学を通じ、次世代の科学技術の担い手である高校生の「科学技術に関する興味・関心を高め、創造的探求心を育てること」を目的にした、(財)日本科学技術振興財団の事業である。

気象研究所では、平成9年度からサイエンスキャンプに協力し、次世代を担う生徒の芽を育ててきた。平成17年度は、7月27日から7月29日の3日間、全国から10名の高校生を受け入れ、講義や実験などを行った。

講義内容

- ・ 天気予報の概要 林 修吾
- ・ 地球温暖化を探る 内山貴雄
- ・ 地球温暖化すると、海の流れはどう変わるのか? 中野英之
- ・ 温室効果ガスによる赤外線吸収 深堀正志
- ・ 二酸化炭素の変動を調べる 小畑 淳
- ・ 海の流れを測る方法 中野俊也
- ・ 地震と津波 林 豊

見学内容

- ・ ドップラーレーダー 気象衛星・観測システム研究部
- ・ スーパーコンピューター 企画室
- ・ 高層観測（ゾンデ放球） 高層気象台
- ・ 観測測器の説明 気象測器検定試験センター

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、文部科学省が「理科大好きプラン」の一環として行なっている取り組みで、気象研究所では平成14年度から協力を行なっている。平成17年度はSSHとして指定を受けている6校を受け入れ、研究官による講義、実験、施設の見学などを行った。

- ・ 7月20日 宮崎県立宮崎北高等学校
- ・ 8月5日 長崎県立諫早高等学校
- ・ 9月9日 香川県立三本松高等学校
- ・ 10月13日 石川県立金沢泉丘高等学校
- ・ 10月20日 熊本県立第二高等学校
- ・ 3月22日 富山県立高岡高等学校